

建物概要

建設位置：富山県富山市杉谷2630番地（富山大学杉谷キャンパス）

改修面積：1,080㎡（リハビリテーション部ほか）

階数：地上7階・地下1階建ての地下1階部分に改修移転

構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造（既存中央診療棟）

実施設計：株式会社 教育施設研究所（建築）

株式会社 新日本設備計画（設備）

工事監理：富山大学施設企画部施設整備課

施工：【建築】清水建設株式会社
【電気設備】米沢電気工事株式会社
【機械設備】北陸設備工業株式会社

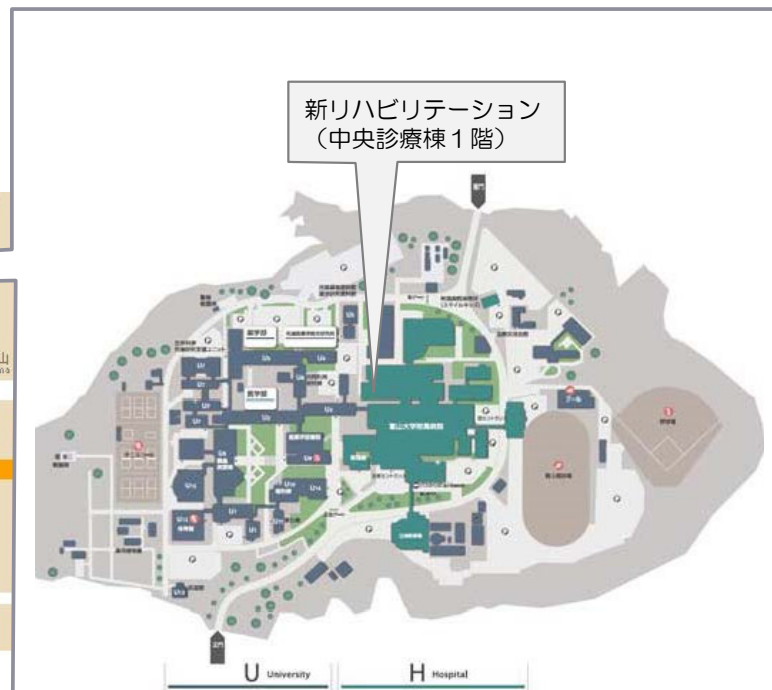
工期：令和4年2月～令和4年10月

富山大学附属病院リハビリテーション

Rehabilitation, Toyama University Hospital



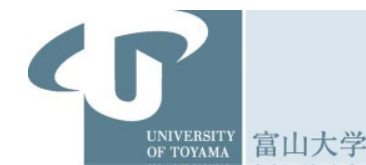
杉谷キャンパス



Copyright(c) 2005-2007
UNIVERSITY OF TOYAMA, ALL Rights Reserved.

杉谷キャンパス 案内図

杉谷キャンパス 配置図



2022.10

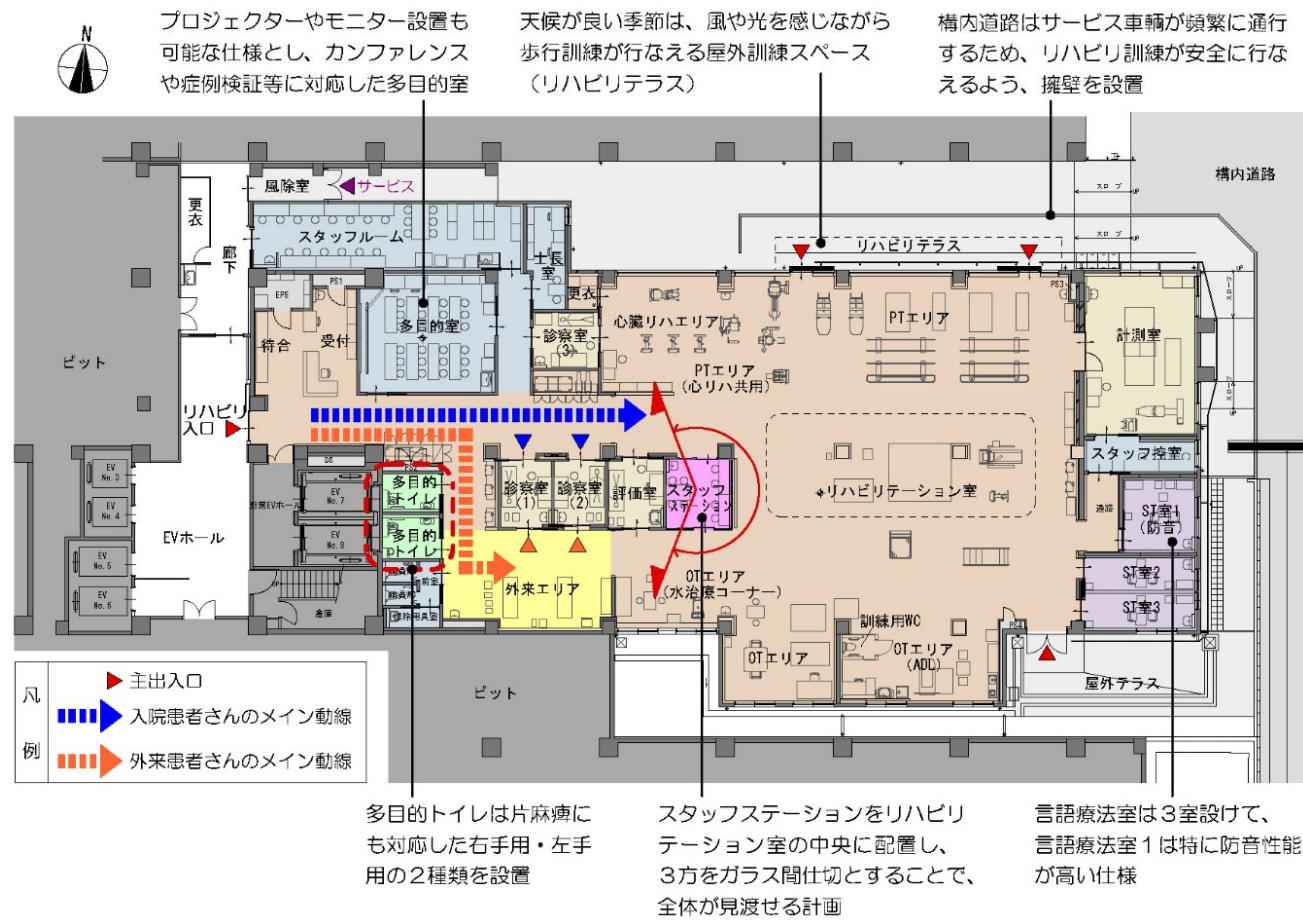
平面計画

- ①患者さんのプライバシー確保と利用しやすい平面計画
- ②スタッフが患者を見守りやすい平面計画

平面計画においては、入院患者さんと外来患者さんの利用目的や動線及びプライバシーに配慮し、入院患者さんのゾーンと外来患者さんのゾーンに分ける計画とした。診察室についても、南北2箇所を出入口を設けて、出来る限り、入院患者さんと外来患者さんが交わらない計画とすることで、患者さんのプライバシーに配慮した。

多目的トイレや診察室は、片麻痺の患者さんに配慮した右手用・左手用を設けるなど患者さんの症状に応じた計画としている。

また、心臓リハエリアの隣に専用の診察室を設けるなど、患者さんの移動による負担を減らし、利用しやすい計画としている。



スタッフステーションをリハビリテーション室の中央に設け、3方向をガラス間仕切とすることで、リハビリテーション室の全体が見渡せる計画とし、患者さんを見守りやすい計画としている。

気候の良い季節には、光や風を感じながら歩行訓練等が行える屋外訓練スペース（リハビリテラス）を設け、2段手摺の設置や室内から外へフラットで移動することができるバリアフリーの計画としている。

また、北側には庇を設けて多少の降雨の日でも利用が可能な計画としている。

内装計画

温かみ・安全性・長寿命化などに配慮した内装計画

内装は床と腰壁に木の温もりが感じられる木調の内装材を選定しました。床材は衝撃吸収性と歩行性に優れたビニル床シートとすることで、安全にリハビリ訓練が行える仕様としています。

また、木調の腰壁保護シートのほか、柱の出隅部分にコーナーガードを設けることで、美観と機能性を長期間保てるよう配慮しています。



リハビリテーション室のイメージ

設備計画

安全で使いやすく、省エネ化を目指した設備計画

LED照明器具を基本に、「人感センサーと点灯エリアの細分化」により、省エネに配慮しています。

診察室及びリハビリテーション室には眩しさを考慮した「カバー付照明器具」を採用しています。

診察室は、感染症の患者さんが診察を受ける場合も想定して、陰圧設定が可能な排気設備を設けています。

床コンセントは、つまずき防止のため、フラット型コンセントを採用しています。

感染防止と節水対策のため、全ての洗面・手洗器は自動水栓を採用しています。

大空間のリハビリテーション室は、外気処理空調機＋排気ファンにより大きな風量での換気を行い、清潔エリアから不潔エリアへ空気が流れるよう配慮しています。

職員の方が長時間利用するスタッフルーム・多目的室・診察室などは、全熱交換ユニットによる換気を行い、外気負荷の低減を図っています。